

専門分野				
日本文学				
研究課題				
日本近世における詩壇の研究、日本漢詩における中国・朝鮮詩壇の影響、日本の女性詩人、日本近世漢文学史				
教育活動				
担当授業科目(学部)				
日本語表現技法、専門基礎演習、専門応用演習、卒業研究、漢文学講読、漢文学概論、日本文学特講（～平成27）、フィールドスタディーズ日本文化（H25～）、教職特別演習（H27～）東アジア文化研究（H27～）文学をたのしむ（日本古典文学）				
担当授業科目(大学院)				
事項	年月	対象者	概要	
教育方法の実践例				
漢文学講読	H24～28	リベラルアーツ学科 2・3・4 回生	講義と、それを踏まえた演習形式のミニテストを繰り返すことによって、初めて目にする漢詩を辞書を使って自分で読み解く技術を身につける。	
作成した教材・資料集				
その他教育活動上特記すべき事項				
研究活動				
著書・CD・論文・学会発表・演奏会等の名称	単共の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	共著者、共同発表者、共演者の名前、曲名、担当頁、概要など
著書・訳書・CD等				
学術論文				
「朱子学者の夢—十八世紀朝鮮の儒者と日本の儒者の詩をめぐって—」	単	H24.4	『江戸の漢文脈文化』中野三敏・楠元六男編(竹林舎)	P239～261(全486頁)「夢」をめぐる表現や発想の違いに着目し、同時期(18世紀)の朝鮮と日本の知識人の詩を比較し、考察を加える。
「江戸時代後期的女性漢詩人」	単	H24.6	『中国語文学誌』39 輯(東方女性文学特輯号)、中国語文学會(韓国)	P53～68 中国語で発表(喬玉鉦訳)江戸時代後期の女性詩人らの営みを文学史の中に位置づけるとともに、特に江馬細香をとりあげ、彼女にして獲得しえた詩境はどこにあったかをさぐる。
「「大塩」後の大坂—『梅墩詩鈔』三編の広瀬旭莊—」	単	H24.8	『地域文化の歴史を往く 古代・中世から近世へ』鶴崎裕雄編(和泉書院)	P364～380(全458頁)大塩平八郎の挙兵は当時の社会に大きな衝撃を与えたが、知識人らはどのようにその情報を獲得し、いかに考えたか。行動する知識人と行動しえない知識人とに引き裂かれる彼らの苦悩に焦点をしばった。
「芥川龍之介と漢詩—『春服』に見る「詩眼」とその変容を中心に—」	共	H24.12	『帝塚山学院大学研究論集(リベラルアーツ学部)』第47集	P1～11 宮内淳子との共著(P1～21)芥川龍之介が自ら小説集の標題に用いた「春服」をキーワードとして、彼がこのことばに託そうとしたものは何であったのかを考察する。福島は第一章の「一 舞雩の路—芥川龍之介の漢詩」を執筆。

「菅茶山「赤馬関懐古」詩をめぐって」	単	H25.3	『広島県立歴史博物館 研究紀要』15号	P43～55 歴代の詩人たちが賦した赤間関懐古詩の背景に朝鮮継信使の賦作が影響を及ぼしている可能性について考察する。
「対潮楼に登る—朝鮮通信使と日本の文人の賦作をめぐって—」	単	H25.10	『善隣友好 朝鮮通信使 一鞆の浦 新たなる発見—』福山市鞆の浦歴史民俗資料館編・刊	P60～69(全 89 頁)朝鮮通信使らは、決まって鞆の浦の対潮楼を訪れ、詩を賦したが、彼らはその賦作に何を託していたのか。また、同所を訪れて賦した日本人の作と比較することにより、通信使と日本文人との文化的交流やそれぞれの賦作の特質について考察を加える。
「泉鏡花『春昼』論—花をめぐり付合的発想について—」	共	H26.12	『帝塚山学院大学研究論集(リベラルアーツ学部)』第49集	P19～31 宮内淳子との共著(P9～31)福島は第二章「菜の花のみちびくもの」を記し、『春昼』のストーリーをつなぐものとして「付け合い」的発想のあることを指摘し、菜の花、蝶、獅子、夢、雨をキーワードとして、それらの語の連想によるつながりを漢詩等を用いて説明する。
「妖怪生」小山伯鳳のこと	単	H27.1	『懐徳』83号	P6～18 混沌社は才能ある詩人を輩出したが、小山伯鳳は夭折が惜まれる文人である。彼は「妖怪生」という異名を持つほど怪談奇談に通じていた。残された資料は決して多くはないが、それらを収集し、伯鳳を混沌社という時代を先取りした詩社の中に、また宝暦明和期の上方文壇の中に位置づける。
「語法から見る近世詩人たちの個性—唐朝の詩人たちを中心に—」	単	H27.8	『和漢比較文学学会第8次海外特別例会和漢比較文学シンポジウム2015 予稿集』	P2～7 日本の詩人の語法には各々一種の癖が認められる。それが母語の文法や発想の影響のみならず、作者の志向や性情に起因し、時としてその本質に関わるものですらありうることについて、エクソフォニーという概念を導入して分析を行う。
佐藤春夫『女誠扇綺譚論—植民地の新聞記者と読書人を視座として—』	共	H28.12	『帝塚山学院大学研究論集(リベラルアーツ学部)』第49集	P11～23 宮内淳子との共著(P1～23)福島は、第二章「白話文運動前夜の読書人」を記し、作中にしかけられた「コード」を漢文脈によって解き明かし、その「コード」を開く人物としての「世外民」を漢詩文の意義が変容しつつあった時代の知識人としてとらえる。
「大塩平八郎の詩心」	単	H29.3	『大塩研究』76号	P3～9 大塩平八郎の残した詩から新出資料をふくむ6首を選び、その作風を日本漢詩史の中に位置づけるとともに、彼の詩人としての技量や美意識について論ずる。
<b>学会発表</b>				
「江戸時代後期的女性漢詩人(The Women Poets in the Latter Part of the Edo Period)」	単	H24.4	“東方女性文学国際学術研究会”於梨花女子大学(韓国)	江戸時代後期の女性詩人らの営みを文学史の中に位置づけ、特に江馬細香をとりあげ、彼女にして獲得しえた詩境はどこにあったかをさぐる。
「語法から見る近世漢詩人たちの個性—唐朝の詩人たちを中心に—」	単	H27 .8.	和漢比較文学学会第8回海外特別例会(中国・西北大学)	日本の詩人法に認められる癖が母語の文法や発想の影響のみならず、作者の志向や性情に起因し、その本質に関わるものであることを、エクソフォニーという概念を導入して分析する。
パネル発表「日本漢文学研究を“つなぐ”—通史的な分析・国際発信・社会連携— (“Globalizing Japanese Kanshibun Studies : Interdisciplinary Approaches”)」	共	H28.7	国文学研究資料館・第2回日本語の歴史的典籍国際研究集会	漢詩文が制作される場の問題や漢文学的な知の流通経路(受容の問題)などについて、古代、中世、近世の状況について発表・討議した。福島は、報告3「望まれた読み手とは(近世日本漢詩文研究の立場から)」を担当。

演奏会・発表会				
その他の研究発表、演奏				
「唐風への同化と独自性の模索―荻生徂徠「螢」詩を例にとつて」	単	H27.3	公開シンポジウム 第一回日本漢文学総合討論 パネルディスカッション2「祖述の様相―近世詩文の内なる唐土―」(大阪大学豊中キャンパス)	
全体討論コメンテーター	共	H27.4	国際ワークショップ 幕末漢詩文の”かたち”(大阪大学豊中キャンパス)	
「女流の漢文」	単	H28.3	『日本「文」学史 第二冊「文」と人びと―継承と断絶』ワークショップ(早稲田大学)	
その他の著書、訳書等(雑誌原稿等を含む)				
書評「揖斐高著『江戸の文人サロン 知識人と芸術家たち』」	単	H24.8	『和漢比較文学』45号	P56～65
書評「小財陽平『昔茶山とその時代』」	単	H29.2	『和漢比較文学』58号	P73～82
研究助成金の受給状況				
科研費の採択				
研究タイトル	助成金タイトル、支給元		研究代表者・分担者の区別	
	支給額		支給年度	
その他の外部資金による活動				
研究タイトル	助成金タイトル、支給元		研究代表者・分担者の区別	
「日本漢詩文における古典形成の研究ならびに研究環境のグローバル化に対応した日本漢文学の通史の検討」	国文学研究資料館 日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築事業		分担者	
	支給額		支給年度	
	H27:240000円、H28:50000円		H26～29	
研究タイトル	助成金タイトル、支給元		研究代表者・分担者の区別	
	支給額		支給年度	
その他研究活動上特記すべき事項	年月	概要		
学内委員等				
就任期間	機関名・委員名・役職名			
2012.4～2014.3	教職課程委員			
2012.4～2014.3	FD委員			
2014.4～現在	アドミッションセンター委員			
社会活動				
学会役員				
就任期間	学会役員名			
2009.11～現在	『和漢比較文学』編集委員(和漢比較文学会)			
2013.11～現在	理事(和漢比較文学会)			
2013.11～現在	『和漢比較文学』編集委員長(和漢比較文学会)			

公開講座				
講座名、講演タイトル	単共の別	年月	場所	概要
『黄葉夕陽村舎詩』と菅茶山	単	H24.7	「菅茶山と化政文化を彩る7人の巨人たちー菅茶山とその世界IVー」講演会 広島県立歴史博物館	茶山が赤間が関や柄の浦で賦した詩を中心に、茶山の詩風について考察するとともに、朝鮮通信使の賦した詩との影響関係について論ずる。
「大塩の乱と廣瀬旭荘」	単	H24.9	咸宜園教育研究センター(大分県日田市)定期講座	大塩の乱に際しての廣瀬旭荘のスタンスを、大坂の儒者篠崎小竹と比較しつつ論ずる。
「廣瀬旭荘と篠崎小竹」	単	H24.12	池田市立歴史民俗資料館 特別展「廣瀬旭荘と池田・大坂」講演会	廣瀬旭荘の最大の理解者であった篠崎小竹と旭荘との交流を追う。
「妖怪生」小山伯鳳のこと	単	H26.4	大阪大学懐徳堂記念会懐徳忌講演 於誓願寺(大阪市中央区)	夭折した詩人小山伯鳳の業績を追うと共に、詩社混沌社友の怪奇趣味について考察する。
漢詩人たちの「夢」	単	H28.2	帝塚山学院大学国際理解サロン「夢との対話ー連歌・文学・心理学の視点からー」	日本、王朝時代の朝鮮、中国の知識人たちが、漢詩において夢をどのように歌っているか、そして夢にどのような思いを託していたか、作品を紹介しながら論ずる。
「大塩平八郎の詩心」	単	H28.7	大塩事件研究会7月例会(大阪市成区)	大塩平八郎の残した詩から新出資料をふくむ6首を選び、その作風を日本漢詩史の中に位置づけるとともに、彼の詩人としての技量や美意識について論ずる。
<b>学外機関委員等</b>				
<b>就任期間</b>		<b>機関名・委員名・役職名</b>		
<b>その他、学会や学術的団体での活動、社会活動上特記すべき事項</b>				
<b>海外での活動</b>				
<b>海外での教育、研究、大学運営、国際貢献にかかわること</b>				
<b>期間</b>	<b>国名</b>	<b>概要</b>		